第118回 老年学公開講座

健康のための匙加減

～クスリはリスク～

講演内容と講演者

「創薬は楽じゃない」
東京都健康長寿医療センター研究所
老化制御研究チーム研究副部長……石神　昭人

「リウマチは不治の病ではなくなった～新薬の開発～」
東京都健康長寿医療センター
膠原病･リウマチ科 副部長……杉原　毅彦

「安全に薬を飲む秘訣～過ぎたるは及ばざるがごとし～」
東京大学大学院医学系研究科 准教授……秋下　雅弘

司会 丸山　直記
東京都健康長寿医療センター研究所 副所長

日時 平成23年 11月16日(水) 午後1時15分から午後4時30分まで

会場 調布市グリーンホール 大ホール
東京都調布市小島町2－47－1

主催：東京都健康長寿医療センター研究所
後援：調布市

手話通訳あり

当日先着 1300人

申込不要・入場無料

地方独立行政法人　東京都健康長寿医療センター
東京都健康長寿医療センター　研究所
（東京都老人総合研究所）
広報普及係
03-3964-3241（内線3008）
ホームページ　http://www.tmig.or.jp/

R70

第118回 老年学公開講座

健康のための匙加減

～クスリはリスク～

基礎的な研究に携わっている研究者はしばしば、こんな経験をしているはずです。病気の原因を解明したり、治療につながりそうな分子を発見したりすると、「先生、早く治療薬を作ってください」「今すぐ治療してもらえるのですね」などと言われる事です。「いやー、治療薬が出来るまでにはなかなか道が遠くて」などと言うと、がっかりされたり、時には「そんな事もできないのなら何のための研究だ」というような顔をされます。将来的に役に立つと信じて仕事をしている研究者としては本当につらい事です。でもそのような質問をされる多くの方は「新薬」ができる過程を良く知らない事が多いのです。

「新薬」が世に出るまでには、一般的に20年以上の時間と巨額の開発費が必要なのです。このために近年、製薬会社の合併・買収が頻繁に行われてきました。医薬品の分野で最近、「分子標的薬」と呼ばれる薬の種類が多くなりましたが、癌やリウマチの研究者は20年から30年前の悔しい思い出が湧くでしょう。がっかりされていた彼らの基礎研究の成果が、いまこうした画期的な新薬としてデビューしているからです。

薬という文字は、もともとクスリが多くの樹木を原料としていたので、草冠に「楽」という字からできています。しかし楽になるからといって沢山服用すれば良いわけではありません。高齢者は複数の医療機関や科を受診することが多いので、薬も重複しがちです。高齢者にとって正しい薬の知識が必要です。良く冗談でいうのですが「クスリ」は使い方を間違えると逆に「リスク」となるのです。

東京都健康長寿医療センター研究所
副所長　**丸山　直記**

地方独立行政法人　東京都健康長寿医療センター
東京都健康長寿医療センター　研究所
（東京都老人総合研究所）
広報普及係
03-3964-3241（内線3008）
ホームページ　http://www.tmig.or.jp/